福山平成大学
FDニュースレター No. 14

発行：福山平成大学
ＦＤ推進委員会
〒720-0001
広島県福山市御幸町
上岩成正戸 117-1
084(972)5001(代)
fd@heisei-u.ac.jp

目　　次

平成 29 年度授業公開について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
授業公開：企業実務 A ～PBL（課題解決型）学修～　（経営学科 小玉 一樹 教授）・・・・・・ 2
平成 29 年度 FD 研修会報告 I 「英語論文の書き方のヒント」（経営学科 渡辺清美 教授）・・・・・・ 3
FD 研修会報告 II ～関西国際大学学長　濱名篤氏をお迎えして～
「学修成果の可視化と産業界と協同した評価」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
平成29年度FD講習会報告「実用統計講座」（経営学科 福井 正康 教授）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
平成29年度学生による授業アンケート調査結果・・ 5
FD 関連図書コーナー新着案内・・・ １０
平成 29 年度 FD 推進委員会活動記録・・・ １１

平成２９年度授業公開について

今年度の授業公開は、経営学科専門科目「企業実務 A」（小玉一樹教授）において行われている「課題解決学習」(Project-Based Learning)　を選ばせていただきました。

福山市内にある株式会社キャステム様から「全従業員が着用するユニフォームのデザイン」の依頼を受けて、学生たちが５～６名で一つのグループに分かれてデザインを検討し、見学会実施日にキャステム様から担当の方をお招きし、グループごとにデザインのプレゼンテーションを行いました。その様子を参加した教員約１５名が見学しました。

各グループの学生たちは会社の要望と会社の特徴をデザインにいかに生かしたかなどを説明しました。会社の担当者からは具体的な指摘や質問が出され、学生がそれに答えるというまさにアクティブラーニングの目標とする実践的な学習がなされている様子を見学することができました。

昨年に引き続き授業を公開していただいた小玉教授には心より感謝申し上げます。授業の概要やアクティブラーニングのポイントなどは以下の小玉先生の記事をご覧ください。

授業公開：企業実務 A
－PBL（課題解決型）学修－

経営学科
教授　小玉　一樹

1.　授業概要

本授業「企業実務」は，経営学科独自のキャリア教育志向が強い授業である。学生のキャリアに関する教育はアクティブ・ラーニングとの親和性が高いと考えられるため，本授業においても年間を通じて AL 型授業を取り入れている。具体的には，映像や配布物，それに関連した講義のインプット授業－グループによる議論・発表－アウトプットとしてのレポートなどの課題の提出である。また，実際の就職における選考においても，グループディスカッションが用いられていることから，本授業でのグループワークはそれらの事前体験ともなると考えられる。

前期の企業実務 A では，地元企業のユニフォーム変更に際し，そのデザインを学生目線で考えて欲しいという依頼に基づき，それら PBL 型の授業として取り入れた。

2.　PBL とは

PBL とは少人数グループによる問題発見解決型（事例解決型，事業課題解決型）の学習方法である。そのプロセスには，グループ討議，活動記録の作成，自己学習，成果報告までを含む統合的・創造的な学習に主眼を置いている実践形式の学修方法である。PBL では，学生が学修の主体であり，教員は学修を支援する立場となる。

教員は必要以上には学修過程に関わらないが，区切りとなる学修終了時までは，継続的なファシリテーションを行っていく。すなわち，課題の提示と基本的な説明，学生は少人数に分かれたグループ学修を効果的に進めながら，課題解決を図っていく必要がある。

3.　本授業での取り組み方法

本授業における取り組み方法は以下のとおりである。

（1）　課題の提示と解説

まず，「企業のユニフォームのデザインを考えること」について授業で取り上げること，本授業の進め方について説明した。少人数グループを編成し，各グループ内でリーダーの選出および各役割を話し合いで決定した。

第１回目授業は課題提示として，企業の方にお越しいただき，会社概要やなぜ今ユニフォーム変更なのかを述べてもらった。さらに，現在のユニフォームの問題点や社員の希望についても課題として提示してもらった。

（2）　自己学修と計画的学修

PBL は授業時間内で完結する学修形態ではないと考えている。課題検討はグループで議論することから始まり，それを記録することで，自己学修の検討材料にしていくことが必要になる。また，議論の中で明らかになった課題解決に必要となる知識や資料を収集することや，時間的制約のある中で計画的に学修を進めていくことも大切な要素である。そのためにも，グループで行った議論の記録を残し，グループで段階ごとの情報を共有しながら，個々の役割分担を図りながら，学修を進めていくことが重要である。

この授業では，グループ学修期間を３週間として取り組んだ。学生は図書の書籍やインターネットによる調査だけでなく，作業服ユニフォームの会社からカタログを集め検討を繰り返していた。これらのプロセスは，授業時に各グループのリーダーから報告がなされた。

（3）　成果報告

グループで学修した内容について，どのように課題解決に至ったかを報告することは重要な学修プロセスである。そのプロセスを説明し，他者からの客観的な評価を受けることで成果として結実すると考えている。本授業においては，成果報告は課題解決およびそのプロセス，プレゼン資料の作成，プレゼンテーション，他者からの評価・フィードバックを得るという学修プロセスを含むように指導した。

成果報告に参加された企業の方からは客観的かつ厳しい評価を受け，残念ながら，優秀であるという評価を得たグループはなかった。しかし，いずれの発表も各グループのメンバーが協

働して仕上げた成果発表であったことには違いなく，各グループメンバーが協働したプロセスにおいて得たものは大きいと考えられる。

4.　まとめ

経営学科では，学科の学生に対して社会人基礎力を身に付けることに重点を置いた教育を展開している。社会人基礎力とは，「前に踏み出す力」，「考え抜く力」，「チームで働く力」の 3 つの能力であり，職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力として，経済産業省が 2006 年から提唱しているものである。経営学科では，今後も AL や PBL などの学修方法を積極的に用い，基礎学力や専門知識を活用しながら社会人基礎力を意識的に育成していきたいと考えている。

平成２９年度ＦＤ研修会Ⅰ報告

英語論文の書き方のヒント

経営学科　渡辺清美教授

平成３０年１月２５日に本学 3103 教室において、本年度第１回目の FD 研修会を開催しました。研修は９０分で、約４０名の参加者がありました。「英語論文の書き方」をテーマにしましたが、今回は特に英語のタイトルとアブストラクトの書き方に焦点を絞った内容にしました。論文を書く際に、日本語であっても、タイトルやアブストラクトを英語で別記しなければならない場合が多くあるためです。また、デジタル化とウェブ上での論文公開が進む状況の中、英語のタイトルやアブストラクトで論文の中身が評価される可能性が高まっているという状況があります。このような点を考慮しつつ、簡潔に論文内容を表す表現方法などを中心に説明がなされました。

平成２９年度 FD 研修会 II 報告

学修成果の可視化と産業界と協同した評価

関西国際大学学長
濱名　篤氏

平成３０年２月２２日に本学 3102 教室において関西国際大学学長の濱名篤氏をお招きして、「学修成果の可視化と産業界と協同した評価」という題で講演していただきました。大学における教育の質保証を明確化することは、大学の生き残りにとって大事な要素であると考えられています。濱名氏は文科省の中央教育審議会大学分科会の委員であり、大学の内部質保証をめぐる動きのまさに中枢におられる方ですので、今回の FD 研修のテーマを語ってくださるのにまさにふさわしい方でした。

講演は、まず、中教審の最近の動向の説明からはじまり、アドミッション、カリキュラム、ディプロマという３つのポリシーに加えて、それらを評価するアセスメントポリシーの必要性について触れられました。そして、濱名氏が学長を務められる関西国際大学の教育システムをご紹介くださいました。関西国際大学には看護、こども、福祉

や経営の学科があり、その評価システムは本学にとっても参考になるものでした。時にユーモアを交えて、わかりやすくお話しくださり、アンケートでは高評価のコメントが多数ありました。

平成２９年度ＦＤ講習会報告

実用統計講座

経営学科　福井　正康　教授

平成２９年８月２９日から９月１日にかけて、ＦＤ講習会「実用統計講座」を、本学のコンピュータ室で開催致しました。

このＦＤ講習会は、授業改善と研究への活用を目指して、毎年実施しているもので、今年で１０年目になります。今年は、例年より２日多く、１日目が「基本統計」、２日目が「多変量解析の基礎」、３日目が「多変量解析の応用」、４日目が「統計を支える手法」という内容で実施致しました。参加者は延べ３９名で、非常に熱心に取り組んでいただき、大変感謝致しております。分析には College Analysis という本学で開発したフリーソフトを使っておりますが、卒論で検定などを考えておられる場合、学生に使わせるのに良いソフトではないかと思います。

平成３０年度にもＦＤ講習会を企画する予定ですので、多数の方のご参加をお待ち申し上げております。

平成 29 年度 学生による授業アンケート調査結果

１．調査概要

(1) 実施期間
前期：平成 29 年 7 月 18 日（火）～8 月　4 日（金）
後期：平成 30 年 1 月 17 日（火）～2 月　3 日（土）

(2) 対象科目
演習・実習等の科目を除く、全科目（履修者数５名未満の科目を除く）

(3) 実施科目数
前期：322 科目
後期：284 科目

(4) 実施方法
- 学修支援システム・セレッソを用いて、授業時間内に教員の指示に従って、学生が各自スマートフォンなどを通じて回答する。
- アンケート集計結果は、科目毎に科目担当教員に返却。大学全体、学部・学科、学年別の集計結果は、各学部、学科に配布するとともに当ＦＤニュースレター等で公表する。

(5) 設問
＜授業に関する設問＞
Ｑ１-１．この授業の履修の決定や学修する際に、シラバス（授業概要）を読んだ
Ｑ１-２．シラバス（授業概要）は、この授業の学修に役立った
Ｑ１-３．シラバス（授業概要）の到達目標を達成できた
Ｑ２．受講にあたって、学修到達目標や注意事項などの説明・指導は、適切だった
Ｑ３．この授業の進度は、適切だった
Ｑ４．教員の話し方は、聞き取りやすかった
Ｑ５．板書や視聴覚機器は、見やすかった（聞きやすかった）
Ｑ６．教員の説明・指導は、わかりやすかった
Ｑ７．教室や実習・実技の環境･設備などは、適切だった
Ｑ８．この授業は、有意義だった
＜学生の受講態度に関する設問＞
Ｑ９．この授業にきちんと出席した
Q10. 受講マナー（遅刻･早退、私語など）は守れた
Q11. 予習･復習・課題提出など、この授業に熱心に取り組んだ
Q12. この授業に対する１回あたりの平均勉強時間

(5) 回答方法
５段階評価　５：よくあてはまる
４：ややあてはまる
３：どちらともいえない
２：あまりあてはまらない
１：全くあてはまらない
（Q12. については、５：６０分以上、４：６０分未満、３：３０分未満、
２：１５分未満、１：全くしなかった）

(6) その他
科目担当教員の自由設問および自由記述欄あり。

２．　大学全体の結果（図１）

（上段：前期、下段：後期）

	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2. あまりあてはまらない	1. 全くあてはまらない	平均値
Q1-1 シラバスを読んだ	27%	34%	24%	7%	8%	3.66
	33%	28%	25%	6%	7%	3.73
Q1-2 シラバスが役に立った	27%	33%	28%	6%	6%	3.70
	32%	29%	29%	4%	5%	3.80
Q1-3 到達目標を達成した	27%	34%	31%	4%	4%	3.75
	32%	30%	32%	3%	3%	3.85
Q2 到達目標・注意事項の説明	41%	36%	17%	3%	2%	4.12
	45%	33%	18%	3%	1%	4.17
Q3 授業の進度	48%	34%	12%	4%	2%	4.24
	51%	32%	13%	3%	1%	4.28
Q4 教員の話し方	50%	32%	12%	5%	2%	4.22
	52%	30%	13%	3%	2%	4.27
Q5 板書・視聴覚機器	47%	33%	13%	5%	2%	4.18
	49%	31%	14%	4%	2%	4.22
Q6 教員の説明・指導	47%	33%	13%	5%	2%	4.19
	50%	31%	14%	4%	2%	4.23
Q7 教室の環境・設備・機材	49%	33%	13%	3%	2%	4.24
	52%	31%	14%	3%	1%	4.29
Q8 授業は有意義だった	50%	32%	13%	3%	2%	4.24
	53%	29%	14%	3%	2%	4.29
Q9 出席状況	69%	22%	6%	2%	0%	4.58
	66%	24%	8%	2%	0%	4.53
Q10 受講マナー	64%	25%	8%	3%	0%	4.50
	63%	26%	9%	2%	0%	4.50
Q11 授業への取り組み	46%	30%	17%	4%	2%	4.14
	49%	28%	17%	4%	2%	4.18
Q12 平均勉強時間	23%	23%	21%	14%	19%	3.17
	27%	218%	20%	15%	20%	3.18

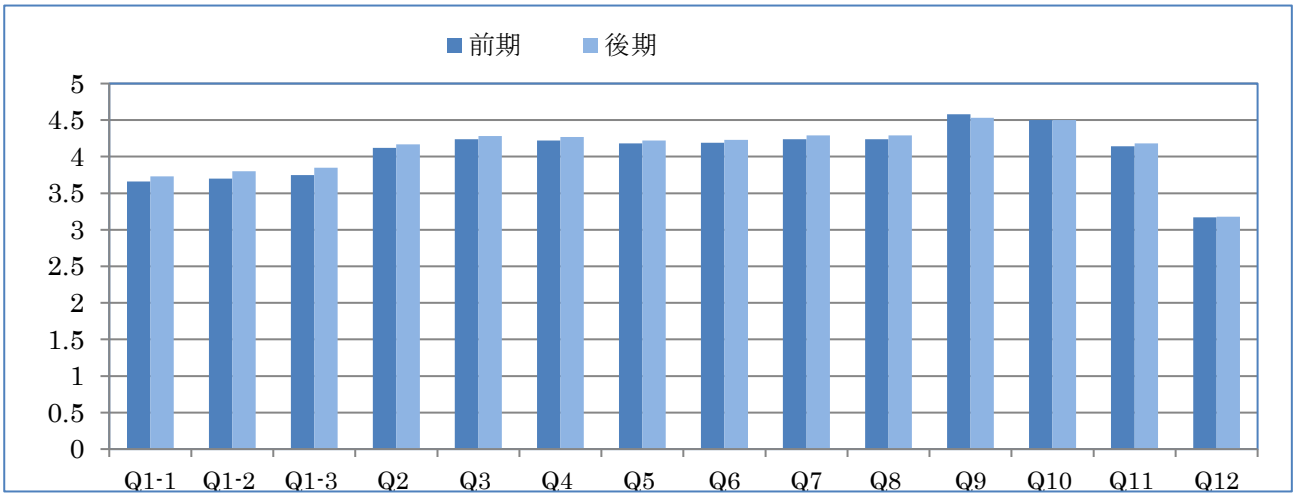

図１　大学全体の結果（平均値）

３．　学年別の平均値（図２）

（上段：前期、下段：後期）

	１年	２年	３年	４年	全体
Q1-1 シラバスを読んだ	3.65	3.73	3.56	3.35	3.57
	3.66	3.84	3.74	3.71	3.74
Q1-2 シラバスが役に立った	3.72	3.74	3.57	3.60	3.66
	3.74	3.88	3.80	3.83	3.81
Q1-3 到達目標を達成した	3.78	3.78	3.66	3.55	3.69
	3.81	3.90	3.84	3.91	3.87
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.22	4.09	3.97	4.10	4.09
	4.13	4.20	4.16	4.32	4.20
Q3 授業の進度	4.35	4.29	4.04	4.00	4.15
	4.24	4.33	4.25	4.39	4.30
Q4 教員の話し方	4.30	4.24	4.06	4.10	4.17
	4.21	4.34	4.125	4.39	4.30
Q5 板書・視聴覚機器	4.25	4.17	4.04	4.15	4.15
	4.17	4.27	4.19	4.34	4.24
Q6 教員の説明・指導	4.27	4.20	4.02	4.35	4.21
	4.16	4.30	4.23	4.41	4.24
Q7 教室の環境・設備・機材	4.36	4.22	4.07	3.90	4.14
	4.28	4.31	4.28	4.35	4.30
Q8 授業は有意義だった	4.30	4.24	4.14	3.65	4.08
	4.23	4.35	4.29	4.43	4.32
Q9 出席状況	4.63	4.55	4.59	3.35	4.28
	4.53	4.55	4.49	4.41	4.50
Q10 受講マナー	4.54	4.51	4.43	4.05	4.38
	4.52	4.52	4.41	4.48	4.48
Q11 授業への取り組み	4.11	4.20	4.11	3.45	3.97
	4.17	4.22	4.11	4.18	4.17
Q12 平均勉強時間	2.94	3.28	3.42	2.65	3.07
	3.14	3.21	3.17	3.39	3.23

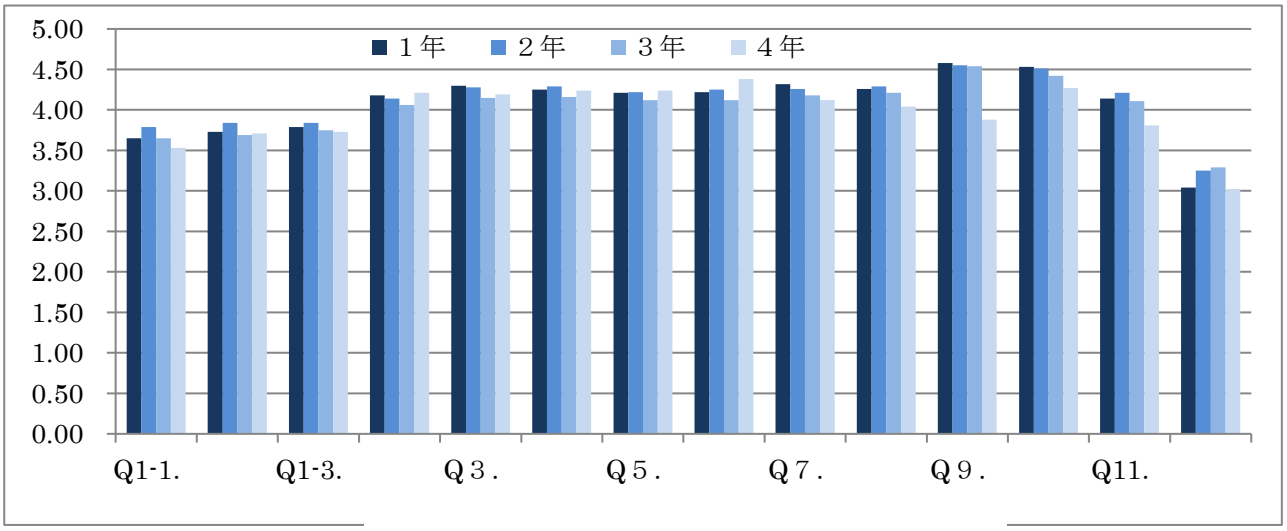

図２　学年別の平均値（２９年度前後期平均））

４．　学科別の平均値（図３）

（上段：前期、下段：後期）

	経営	福祉	こども	健康スポーツ	看護
Q1-1 シラバスを読んだ	3.77	3.73	3.35	3.59	3.78
	3.8	3.82	3.53	3.79	3.72
Q1-2 シラバスが役に立った	3.74	3.73	3.41	3.63	3.83
	3.79	3.86	3.64	3.85	3.81
Q1-3 到達目標を達成した	3.73	3.78	3.49	3.7	3.89
	3.79	3.89	3.7	3.89	3.88
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.11	4.22	3.91	4.09	4.19
	4.14	4.31	3.96	4.19	4.21
Q3 授業の進度	4.19	4.31	4.14	4.22	4.27
	4.18	4.39	4.09	4.32	4.33
Q4 教員の話し方	4.18	4.32	4.14	4.21	4.25
	4.19	4.36	4.08	4.31	4.31
Q5 板書・視聴覚機器	4.14	4.23	4.12	4.16	4.2
	4.16	4.29	4.02	4.27	4.25
Q6 教員の説明・指導	4.14	4.21	4.08	4.2	4.23
	4.19	4.31	4.04	4.29	4.23
Q7 教室の環境・設備・機材	4.17	4.29	4.2	4.21	4.29
	4.19	4.31	4.15	4.3	4.39
Q8 授業は有意義だった	4.12	4.26	4.16	4.23	4.31
	4.17	4.36	4.1	4.32	4.36
Q9 出席状況	4.35	4.6	4.53	4.47	4.75
	4.21	4.53	4.53	4.45	4.74
Q10 受講マナー	4.25	4.46	4.43	4.44	4.65
	4.31	4.44	4.37	4.44	4.68
Q11 授業への取り組み	3.97	4.1	4.09	4	4.3
	3.97	4.1	4.15	4.13	4.37
Q12 平均勉強時間	2.85	3.37	3.19	2.83	3.43
	2.73	3.34	3.06	3.02	3.56

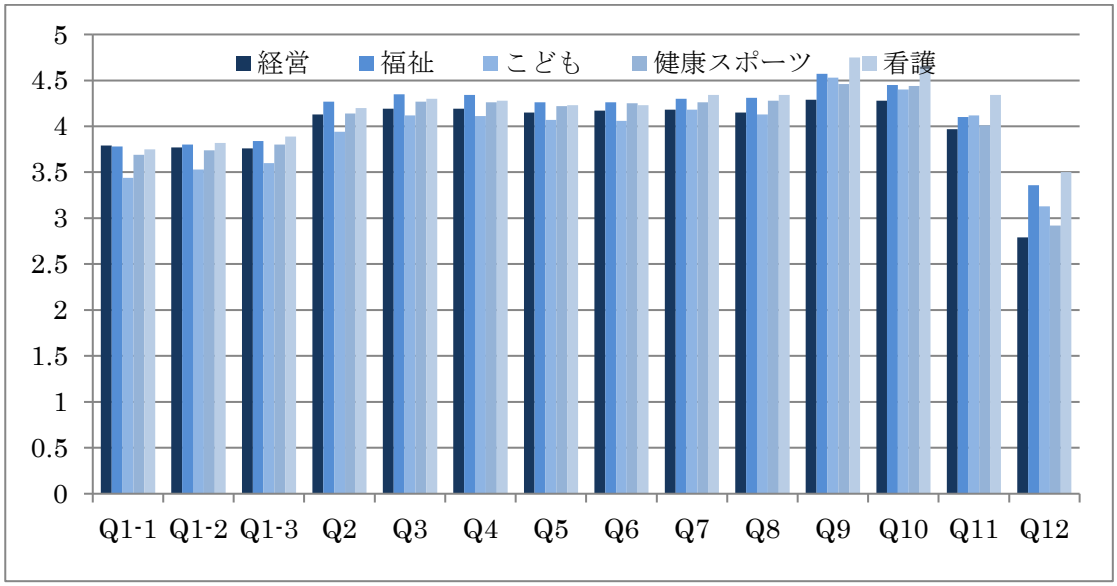

図３　　学科別平均値（２８年度前後期平均）

５．最近３年間の平均値の推移

	27年度		28年度		29年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
Q1-1 シラバスを読んだ			3.48	3.65	3.77	3.80
Q1-2 シラバスが役に立った	3.96	4.01	3.51	3.68	3.74	3.79
Q1-3 到達目標を達成した			3.55	3.71	3.73	3.79
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.19	4.18	3.92	4.03	4.11	4.14
Q3 授業の進度	4.24	4.22	4.09	4.14	4.19	4.18
Q4 教員の話し方	4.25	4.23	4.10	4.15	4.18	4.19
Q5 板書・視聴覚機器	4.21	4.18	4.03	4.09	4.14	4.16
Q6 教員の説明・指導	4.22	4.19	4.06	4.10	4.14	4.19
Q7 教室の環境・設備・機材	4.26	4.24	4.09	4.15	4.17	4.19
Q8 授業は有意義だった	4.24	4.25	4.12	4.17	4.12	4.17
Q9 出席状況	4.56	4.48	4.53	4.45	4.35	4.21
Q10 受講マナー	4.51	4.46	4.44	4.42	4.25	4.31
Q11 授業への取り組み	4.29	4.29	3.95	4.09	3.97	3.97
Q12 平均勉強時間			3.12	3.13	2.85	2.73

６．一般、専門、教職科目別の平均値（29 年度後期）（図４）

	一般科目	専門科目	教職科目
Q1-1 シラバスを読んだ	3.56	3.79	3.59
Q1-2 シラバスが役に立った	3.65	3.85	3.63
Q1-3 到達目標を達成した	3.72	3.89	3.69
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.03	4.21	3.98
Q3 授業の進度	4.20	4.32	4.04
Q4 教員の話し方	4.11	4.32	4.04
Q5 板書・視聴覚機器	4.12	4.26	3.95
Q6 教員の説明・指導	4.07	4.28	4.00
Q7 教室の環境・設備・機材	4.23	4.32	4.00
Q8 授業は有意義だった	4.12	4.34	4.15
Q9 出席状況	4.46	4.55	4.10
Q10 受講マナー	4.46	4.51	4.55
Q11 授業への取り組み	4.04	4.22	4.16
Q12 平均勉強時間	2.69	3.30	3.38

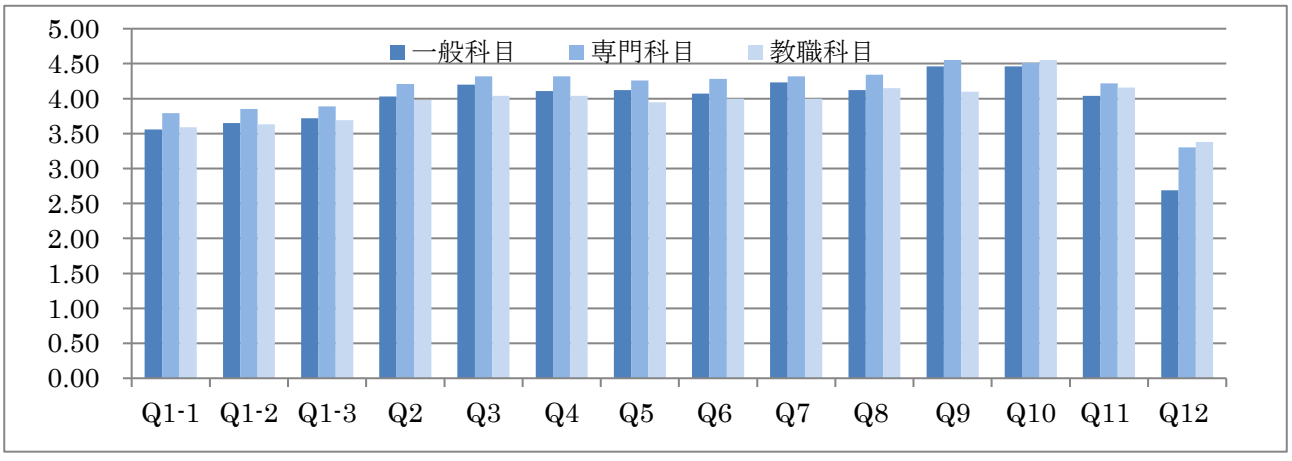

図４　各科目の履修者数別の平均値（２８年度後期）

ＦＤ関連図書コーナー新着案内

本学図書館１階の参考図書架に設置されている「ＦＤ関連図書コーナー」では、毎年多数発刊される国内のＦＤ関連図書の中から、特に有用なものを選定・購入し、蔵書を充実させています。

今年度新たに購入した図書の主なものは、次の通りです。自由に閲覧、貸し出しができますので、多数の方のご利用をお待ちしております。

書　　名	著　者　名
21 世紀の学習者と教育の 4 つの次元: 知識, スキル, 人間性, そしてメタ学習	チャールズ・ファデル（他）
学生を自己調整学習者に育てる:アクティブラーニングのその先へ	L.B. ニルソン　（他）
グローバル化時代の大学論 1 – アメリカの大学・ニッポンの大学 – TA、シラバス、授業評価	刈谷剛彦
「文系学部廃止」の衝撃	吉見俊哉
いま、大学で何が起こっているのか	日比嘉高
大学の FD Q&A	佐藤浩章
看護教育のためのパフォーマンス評価: ルーブリック作成からカリキュラム設計へ	糸賀暢子
失敗事例から学ぶ大学でのアクティブラーニング	亀倉正彦
あの明治大学が、なぜ女子高生が選ぶ No.1 大学になったのか?	上坂　徹
アクティブラーニングのデザイン: 東京大学の新しい教養教育	永田　敬
大学生の学びを育む学習環境のデザイン―新しいパラダイムが拓くアクティブ・ラーニングへの挑戦	岩崎千晶
大学のミッション経営　14 校の実践事例から学ぶ中長期計画	本間政雄
授業設計（シリーズ 大学の教授法)	中島英博
インタラクティブ・ティーチング―アクティブ・ラーニングを促す授業づくり	栗田佳代子
大学教育と読書―大学生協からの問題提起	玉真之介
地域がグローバルに生きるには: 地方創生と大学教育	帯野久美子
学習者中心の教育: アクティブラーニングを活かす大学授業	メルリン・ワイマー
大学教育の数学的リテラシー	水町龍一

平成２９年度　ＦＤ推進委員会 活動記録

平成２９年	４月２７日	平成２９年度　第１回委員会 議題　１）平成２９年度活動計画案 ２）その他
	６月１４日	平成２９年度授業公開「企業実務A」 ―課題解決学習(Project-Based Learning)授業 経営学科　小玉 一樹 教授
	７月１８日～８月４日	学生による授業アンケート調査（前期）
	９月２１日	平成２９年度　第２回委員会 議題　１）FD研修会について ２）前期授業アンケートについて
	８月２９日～９月１日	平成２９年度　ＦＤ講習会「実用統計講座」 講師　経営学科　福井 正康 教授
平成３０年	１月２５日	平成２９年度　FD研修会I テーマ　「英語論文の書き方のヒント」 経営学科　渡辺清美　教授
	１月１７日～２月３日	学生による授業アンケート調査（後期）
	２月２２日	平成２９年度　ＦＤ研修会 II テーマ　「学修成果の可視化と産業界と協同した評価」 講師　関西国際大学　学長　濱名　篤氏
	３月６日	平成２９年度　第３回委員会 議題　１）後期授業アンケートについて ２）その他
	３月	ＦＤ関連図書コーナー（図書館）蔵書追加
	３月３１日	ＦＤニュースレター第１４号発行

編集後記　FDニュースレター第14号をお届けいたします。FDに関して不慣れな者が委員長を仰せつかり、一つ一つ前委員長に確認しながら見様見まねでやってまいりました。お助けいただいた前委員長、FD推進委員の各委員、また教務課の方々には大変お世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。幸いにもFD研修会には関西国際大学学長の濱名先生をお招きすることができ、FDの現状と将来の方向性などを伺うことができました。FDの目的は、教員が大学及び学科の３ポリシーに沿って、いかに学生にわかりやすく授業を展開していけるかにあることを教えられました。今後も引き続き、教員の皆様の教育及び研究にお役に立つようなFD活動を進めていきたいと思っております。皆様のご理解とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。最後になりましたが、皆様の今年度のご協力を心より感謝いたします。(K.W)